

令和8年度 第1回 米子市廃棄物減量等推進審議会概要

1 日時 令和8年6月11日(木) 9:30～11:15

2 場所 米子市役所 5階 議会第2会議室

3 出席者

(1) 委員 (敬称略、順不同)

山本圭介、飯塚舜介、近藤豊、長尾徳信、吉田みつ、竹谷正一、宇田川和花菜
安井誠、柴田真由美、田部美穂、石井宏美

(欠席：、尾崎米厚、小川和郎、川上眞由美)

(2) 事務局

ア 松本市民生活部長

イ 市民生活部クリーン推進課 片山課長、池口課長補佐、清水主任

4 傍聴者 なし

5 会長及び副会長の選出

(1) 会長 飯塚委員

(2) 副会長 尾崎委員

6 議事概要

(1) 第4次米子市一般廃棄物処理基本計画の実施状況及び評価について

～事務局説明(資料1)～

【A委員】

資料1の5ページの言葉の意味について、「集団回収」とあるが、これはどのようなものか。

【事務局】

自治会や子ども会が実施されているものであり、令和3年度までは補助金交付の対象であり収集量が把握できていたが、令和4年度以降は補助金交付がなくなり、収集量が把握できないため収集量の記載がないものである。

【会長】

2ページに、ごみ収集袋についてバイオマスプラスチック袋とあるが、最近ニュースでナフサ不足の関係で全国のあちこちの町でごみ収集袋が足りなくなっているとあるが、米子市は大丈夫か。

【事務局】

米子市では、通常通り在庫を確保しており、特に今のところ買いだめといった現象も起きていないので安心いただきたい。全国の傾向を見ると、ごみ袋が手に届かない理由は、買いだめが起これば店舗の在庫がなくなってしまうことと、もう一つ、ごみ袋の国内製造が難しくなり在庫が切れてしまったと伺っている。米子市は従来から中国で製造しており、製造については何も問題がないところである。

【B委員】

「高齢者問題」と「自治会ごとのごみステーションの管理」「災害時のごみ対策」というのは非常に気になるところで、この辺りを進めていただきたい。また、特に高齢者の関係で、分別ができない高齢者がどんどん出てきている。地域では、いろんなボランティアの方や企業にお願いをして、いろいろやってはいるが、地域も担い手がない。いろんな形で、高齢者対策をやっ

ていけないといけないとは思っている。

次に、米子市のアプリ「さんあ〜る」について、若い方にとっては非常に有効だと思うし、デジタルに慣れている高齢者の方も使っているということなので、もう少し推進していただきたい。内容については、もう少し検討が必要などころもある。

最後に、資料1の3ページ目の環境教育の推進について、米子市は中学生ボランティアが非常に進んでいる。地域のことについて調べる探求教育も地域の方と一緒にするなど進んでいるので、今後はごみ問題・環境問題についても、中学生の感想の中から広げていくなど、そのような目線もあるとよい。

【事務局】

高齢者問題について、包括支援センターなど様々なところの意見を伺いながら進めていきたい。「さんあ〜る」についても、もう少し広報をしっかりとしていきたい。環境教育についても、中学校の総合学習に何校か出向く機会があり、ごみのことについて話しをすることもあるので、中学生の意見を伺いながら、政策に反映できたらと思っている。

【C委員】

この計画はホームページとかで一般の住民の方に知らされているのか。例えば、基本方針に「4R」とあるが、「4R」の説明がどこにもない。みんながわかっているという前提で敢えて書いてないのか。多くの人にこの計画を知ってもらうためには、その説明を。

次に、出てきたゴミをどうするかという出口については重点が置かれているが、そもそもの発生を防ぐこと、例えば無駄なものは買わないとか、そういった個人個人の意識啓発に関わるような事業が今までされてきたのか伺いたい。

【事務局】

ホームページへの掲載は、この計画と実施計画ともに掲載している。「4R」については説明しているページもあるが、ご指摘のように分かりやすくする工夫も必要と思う。

ごみの発生については、個人では、レジ袋を使わないとか、ごみを出さないような工夫をするなど、もう少し詳しくできたらと思う。事業所については、事業所からもごみの処理は負担だと伺っており、例えば作り過ぎないとか、包装の工夫をされている。事業所を訪問しアドバイスできれば定期的に事業所を訪問している。

【C委員】

ごみ処理にかかる費用について、ごみ処理に費用がかからないように製造するとか、そのような働きかけはあるのか。そもそもコストを割り出すようなことはあるのか。難しい話だとは思う。

【事務局】

やはり処理費用がかかるものはある。例えばリチウムイオン電池とかもそうだが、国も製造者責任ということで、いろいろな法律で取り組みをしている。それでも不十分などころについては、自治体が全ての責任を負うのではなく、製造側にもある程度責任を持ったものを製造してほしいということで、必要に応じて国に要望をしていく必要もあると考えている。

(2) 令和8年度一般廃棄物処理実施計画について

～事務局説明（資料2）～

【D委員】

第5次米子市一般廃棄物処理基本計画の概要版に、市民アンケート結果があり、「可燃と不燃

物の分別が困難なゴミの収集を実施する」とあるが、今後必要だと思う。これについては、どのように考えているのか。

【事務局】

これについては、令和4年度に実証事業を行い、その結果費用がかかるということで、市内に混合粗大ゴミを処理できる業者があるので、そちらで処理していただくことになった。

【D委員】

資料2の5ページに、グリーン購入の推進とあるが、これはどういうことか。

【事務局】

(環境に配慮した) 製品にグリーン購入適合のマークがあり、そのような製品を利用いただくというもの。

【E委員】

資料2の18ページ、不法投棄監視員の設置状況というところで、平成19年度から実施ということで、市内7地区とあるが、今後地区が増えていくという計画はあるのか。

【事務局】

今のところは、この地区に限定して監視員活動を進めていただいているところであり、増えるという予定はない。

【F委員】

(第4次と第5次)の概要版を比べてみると、「資源物等の回収ボックスを公共施設に設置する」という市民の希望が大体25%から33.9%と伸びている。資料2の11ページでは、小型家電は市役所や市内の公民館で回収とあるが、そのような形で(資源物回収ボックスを)公共施設に設置する案はあるのか。

【事務局】

今のところは、資源物の持ち込み先はほぼクリーンセンターとなっている。どちらかという店頭回収を周知していく形で考えている。

【B委員】

資料2の9ページに廃自動二輪車とあるが、特に東山公園駅の自転車置き場にすごい量の自転車がある。自転車をそのまま廃棄している人が多いと思うが、あれを上手く活用することができないだろうか。いらなくなった自転車をリユースするという考え方が出てこないものなんだろうか。そういうことをクリーン推進課で減量化ということで少し考えてみていただきたいと思う。

先ほども前段で言ったが、高齢者対策について。(最近は高齢者の方が)ごみの分別ではなくて、収集日を完全に間違われることもある。その対応を自治会でやっているが、高齢者に対してのごみの出し方についての検討と、間違っ出されたごみに対する片付けについて伺いたい。

【事務局】

高齢者のゴミ出しについては、(文字が)ちょっと大きめの簡易版を作成しており、そういったものをなるべく見ていただきたいが、なかなか分別が難しいというところで、何か他に良いものはないか検討をしているところ。

(間違っ)出されたものについては、申し訳ないが、自治会でごみ置き場整理用袋で分けていただき、連絡をいただく方法しかないというところである。

【B委員】

どうしても高齢になると、自治会の役員ができないから班長ができないということで自治会

を離れられる。いや逆だと、自治会に入っただけで見守りもできるし、協力もできるということを盛んにやっている。しかし、今の高齢者のごみの問題と、生活の問題というのを個別にものを考えられるところがあるが、そういうところを含めて全体的な構想みたいなものを出していただければと思う。よろしく願いたい。

【G委員】

私の身近でも高齢者のごみ出し問題は、すごく問題だと思っている。私が住んでいる地区はごみステーションが1個しかなく、これから皆さん歩けなくなったりとか、車で行かないといけないとか。そういう事態が発生したときに、ごみが家にたまってしまったりとか、すごく問題が起こると思う。高齢者の方のヘルパーとか福祉関係の方のごみステーションが稼動しており、これから増えていくという認識でよいのか。

【事務局】

市の施設に現在3ヶ所設置しているが、これからまた増やす計画もあり、増やしていきたいと考えている。

【G委員】

私の地区はごみステーションが一つだが、車で走っていると家の前にゴミを置かれていて、収集されるような地区もある。これは実態によって、自治体に要望とかされているのか。

【事務局】

これは（ごみの）有料化を始めたときに、ステーション方式に統一しようとしたのだが、街中を中心にごみステーションを設置する場所がなくて戸別出しのような形で残っているところがある。引き続き自治会とも協議しながら、ステーション化の方に進めていければと考えている。

【会長】

資料の2の9ページ、「キ」にモバイルバッテリーとあるが、私が持っているのはリチウムバッテリーだと思う。モバイルバッテリーこれはリチウムバッテリーの一部ではないかと思うが、別に扱うのか。

【事務局】

モバイルバッテリーについては、米子市の場合は小型家電の回収で扱うというところである。確かにモバイルバッテリーはリチウムイオン充電電池ではあるが、小型家電として回収している。今回（6月から回収を開始した）「乾電池・リチウムイオン充電電池類」のうち、リチウムイオン充電電池は小型家電から取り外せるものだけとしている。

【会長】

何か混乱は起こっていないか。

【事務局】

先週の土曜日、回収の置き場や保管施設に立ち会ったが、全てがきれいに出ているわけではないが、ほぼ分けて出していただいていた。小型家電から取り外せるリチウムイオン充電電池が多かった。

【H委員】

例えば蛍光灯からLEDに代わり、蛍光灯の廃棄がいっぱい出てきたりとか、何か今後法等が変わりそういうものが出てくる可能性がある。今回この排出量とか処分の量の目標があり、一応毎年減っていくような目標になっているが、ものによっては法律が変わり増えるものが出てくる可能性もあると思うが、その辺は多少織り込んであるのか。

【事務局】

例えば蛍光灯は、年々少なくなってきたのが現状である。確かにいろいろ変われば廃棄が多くなる部分もあるかと思うが、現状は全体的にごみの排出量は減少傾向にあるので、処理量についても年々減ってきているというところで推計した。

【会長】

資料2の4ページの「リユースの推進」について、株式会社ジモティー及び株式会社マーケットエンタープライズと協定を締結したとあるが、これはリユースを行う会社なのか。

【事務局】

例えば、いらなくなった家具とか、家電を譲りたい場合や売却したい場合にシステム（アプリ）を使ってリユースを促すもの。割と他の自治体も協定を結んでいる。

【会長】

実績はどのくらいあるのか。

【事務局】

実績はあまりないと伺っている。

【B委員】

資料2の5ページの「市役所の取り組み」について、米子市から郵便物で送られてくる文章等についてリサイクルするにはしているが、今後は（電子）媒体などで送るなどして、OA用紙の削減に取り組むように検討していただきたい。

「紙おむつリサイクルの研究」について、これは自治体で考えるのもよいが、やはり企業に考えていただくものを思う。しっかり自治体からも物を言い、これをリサイクルできるように再利用できるように資源の有効活用ができるように進めるよう提唱していくべきではないかと思う。

【事務局】

「市役所の取り組み」について、例えば今年度から米子市内の小・中学校では、市や教育委員会から配布する手紙をやめてアプリで配信をするようになった。同じような形で、米子市から発信するものや米子市の内部で使用する紙については、これからも削減を進めていきたいと考えている。

「紙おむつリサイクルの研究」について、なかなか自治体単独でというのは難しいところがあるが、実際企業と自治体が連携して取り組んでいる事例もあり、そういう情報を常にキャッチしながら、何か米子市でもできることがないかということの研究していきたい。

【会長】

事務局から何か連絡事項はあるか。

【事務局】

連絡事項は特にない。次回の審議会については、今のところ予定はない。開催の際には連絡する。

【会長】

閉会とする。

以上